

冬ノ七裏

みくるしからんものとけをけ人に夜目に

いはれは我家ありとて歸りてましき

そなどの給しにさまかへんからにかゝるへき

かと賤へいやしき心のおもひやりなきに

たもとしほりけんもにくからす覺ゆ

みちのくにのかたへ修行してまかりける

時さやの中へなか山をすぐとて又越へこえんことも

いのち不定へぢやうにおぼえてたのみがた

かりしにとしへて後思ひのほかはに城に